

## 183 肝硬変

### 概要

肝硬変は、慢性肝炎又は慢性肝障害に起因する長期にわたる肝組織の障害に基づく変化である。

肝硬変では、肝実質細胞の減少、線維化と構造改築による血流障害、門脈－大循環シャント形成などにより、門脈圧亢進、腹水、肝性脳症などの合併症を引き起こすとともに、原発性肝癌を発生する危険性が高くなる。

### 診断基準

#### 1 B型肝炎ウイルス又はC型肝炎ウイルスによる肝硬変の診断基準

##### (1) B型肝炎ウイルス感染による肝硬変

ア及びイを満たすもの

ア 血液生化学的検査や画像診断検査等の検査を患者の条件や必要性に応じて行い、総合的に肝硬変と診断されたもの。

イ 下記のいずれかを認めるもの。

- ・HBs 抗原陽性若しくはHBV DNA 陽性のいずれかを認めるもの。
- ・HBs 抗原陰性であっても、過去に半年以上継続するHBVDNA 陽性若しくはHBs 抗原陽性のいずれかを認めたもの。
- ・その他、肝硬変を引き起こすB型肝炎ウイルス感染が否定できないもの。

##### (2) C型肝炎ウイルス感染による肝硬変

ア及びイをみたすこと

ア 血液生化学的検査や画像診断検査等の検査を患者の条件や必要性に応じて行い、総合的に肝硬変と診断されたもの。

イ HCV 抗体陽性又はHCVRNA 陽性のいずれかを認めるもの。

#### 2 非代償性肝硬変の診断基準

##### (1) 又は(2)をみたすもの

##### (1) Child-Pugh score にてグレードB (7点) 以上を認めるもの

参考: Child-Pugh score

	1点	2点	3点
肝性脳症	ない	軽度	ときどき
腹水	ない	少量	中等度
血清ビリルビン値 (mg/dl)	2.0未満	2.0~3.0	3.0超
血清アルブミン値 (g/dl)	3.5超	2.8~3.5	2.8未満
プロトロンビン活性値 (%)	70超	40~70	40未満

(2) 以下のいずれかの合併症を認めるもの

ア 腹水

利尿剤の使用等の医療行為を常時必要とするもの。

イ 食道・胃静脈瘤

食道・胃静脈瘤の破裂による吐下血の現症・既往歴があるもの、又は上部消化管内視鏡検査で破裂の危険性がある所見を示すもの。

ウ 肝性脳症

反復歴があり、分岐鎖アミノ酸製剤の使用等の医療行為を常時必要とするもの。

### 3 原発性肝癌の診断基準

画像診断検査や病理検査等を行い、総合的に原発性肝癌と診断されたもの。

#### 認定基準

以下の1及び2を満たすもの

- 1 B型肝炎ウイルス又はC型肝炎ウイルス感染による肝硬変であるもの。
- 2 非代償性肝硬変又は原発性肝癌を発症したもの。さらに、原発性肝癌については、原発性肝癌に対する最終の治療から3年以上経過していないもの。